

霧島市観光 総合戦略

2018年(平成30年)3月



CONTENTS

はじめに	1. 戦略を作る目的／2. 戦略の位置付け／3. 戦略の対象となる期間	01
------	-------------------------------------	----

第1章

観光の動向

1. 国、県の観光動向／2. 訪日外国人観光旅行の動向／3. 観光消費額の動向	02
---	----

第2章

霧島市観光の現状と課題

1. 霧島市の観光動向	03
2. 霧島市の観光客数の推移	04
3. 霧島市を訪れている旅行者の特性	05
4. 霧島市の観光に関する意見・要望	10
5. 霧島市観光の今後の課題	13

第3章

戦略の目標

1. 戦略の基本目標	14
2. 戦略の目標値	15

第4章

戦略で目指すもの、取り組むこと

1. 戦略の全体像	17
2. 具体的な取組	18

第5章

戦略の推進体制

1. 戦略の推進体制／2. 戦略の振り返り	27
3. 戦略の推進体制図	28

資料

1. 戦略策定のための実施調査	29
2. 戦略策定における会議などの開催状況	30
3. 用語解説	31

1 戦略を作る目的

霧島市は自然や温泉など豊富な「観光素材」に恵まれ、2016年(平成28年)には国内外から750万人を超える観光客が訪れています。

本市では官民一体となった誘客活動やおもてなしを中心とした受入体制の充実を進めているとともに、国立公園を世界水準のナショナルパークとしてブランド化を目指す「国立公園満喫プロジェクト」の推進や、火山の麓で地球と向き合いながら、楽しく豊かに生きていく「霧島ジオパーク」活動など、霧島山を取り囲む自治体と連携する広域的な観光振興に取り組んでいます。

観光は、農林水産業や商工業など様々な業種と密接に関係しており、地域経済を支える総合的な産業です。観光客が霧島市を訪れることで、地域の魅力を知っていただくとともに、食事や土産品の購入、宿泊などに伴う経済活動が活発化するなど、幅広い効果をもたらしています。

また、観光客と市民がふれあうことで交流の場が広がり、「霧島に来て良かった」と思っただくことで、リピーターの創出や、移住へのきっかけづくりなど「霧島市ふるさと創生総合戦略」に掲げた「訪れたい、住み続けたいまちづくり」を推進する重要な役割を担っています。

霧島市の魅力を高めることで、「交流人口が増加し、まちや人が元気になる」この観光によるふるさと創生を効果的に展開するため、霧島市の観光に求められている課題やニーズをしっかりと捉え、より多くの観光客に霧島市を訪れていただける取組を進める必要があります。

これらを推進するために、観光関係者はもとより、市民、そして観光客のすべてが「共鳴・共感」できる具体的取組として「霧島市観光総合戦略」を策定するものです。

2 戦略の位置付け

2018年度(平成30年度)から2027年度の10年間を計画期間とする「第二次霧島市総合計画」の施策を具体的に推進する戦略として位置付けます。

3 戦略の対象となる期間

観光動向を踏まえた具体的観光施策を推進する戦略として、2018年度(平成30年度)から2022年度までの5年間とします。

1 国、県の観光動向

2016年(平成28年)の国内宿泊旅行は3億2,566万人(対前年比4.0%減)、日帰り旅行は延べ3億1,542万人(対前年比8.1%増)となっています。

2016年(平成28年)の延べ宿泊者数は4億9,418万人泊(対前年比2.0%減)となっています。そのうち、日本人延べ宿泊者数は4億2,330万人泊(対前年比3.5%減)、外国人延べ宿泊者数は7,088万人泊(対前年比8.0%増)となっています。

2016年(平成28年)の鹿児島県内の宿泊施設の延べ宿泊者数は720万2,190人(対前年比9.7%減)となっています。また、2016年(平成28年)の鹿児島県内の観光地点における観光目的の延べ日帰り客数は1,311万2,000人(対前年比7.7%減)となっています。外国人観光客は増加したものの、4月に発生した熊本地震による影響などにより全体としては減少しています。

2 訪日外国人観光旅行の動向

2016年(平成28年)の外国人観光客数は、過去最高となっています。2015年(平成27年)の1,974万人をさらに上回り、2,404万人(対前年比21.8%増)となり、4年連続で過去最高を更新しています。

2016年(平成28年)の鹿児島県内の宿泊施設の外国人延べ宿泊者数は48万920人(対前年比15.7%増)となっています。

香港	中国	台湾	韓国
香港航空の増便や香港エクスプレスの就航などにより増加	長期宿泊団体があつたことや個人客の増加	熊本地震の影響による減少	熊本地震の影響や前年に釜山チャーター便が運行されたことに伴う反動などにより減少

3 観光消費額の動向

2016年(平成28年)の国内旅行消費額については、20兆9,000億円(対前年比2.5%増)となっています。

2016年(平成28年)の鹿児島県への観光入込客の観光消費額は、総額で2,575億5,000万円(9.2%減)となっています。

2016年(平成28年)の鹿児島県を訪れた観光客の一人当たりの観光消費額は、宿泊1泊あたり3万2,120円(対前年比1.9%増)、日帰りで4,447円(対前年比2.5%減)となっています。

【※国、県の動向については、観光庁発行「平成29年度版観光白書」及び鹿児島県発行「平成28年鹿児島県観光統計」から引用しています。】

1 霧島市の観光動向

2010年(平成22年)の宮崎県で発生した口蹄疫、2011年(平成23年)の新燃岳噴火など、自然災害や風評被害などの外的要因により、一時的に観光客が大幅に減少しましたが、官民一体となった「いざ霧島キャンペーン実行委員会」を組織し、おもてなしや様々なPR活動が展開され、また九州新幹線全線開業の効果なども加わり、宿泊者数においては、2011年(平成23年)の89万8,207人に対し、2012年(平成24年)は101万8,600人にまで回復し、2013年(平成25年)は102万2,354人に達するなど2年連続で100万人を超えました。

しかしながら、2014年(平成26年)以降は九州新幹線全線開業効果の反動減に加え、桜島の警戒レベルの引き上げや硫黄山の入山規制、大型宿泊施設の閉館などにより減少に転じています。

さらに、2016年(平成28年)においては、同年4月に発生した熊本地震により九州全体において甚大な影響を受けました。

そのため、政府は九州の観光産業の早期復興のための大型補正予算を組み、「九州観光支援のための割引付旅行プラン助成制度」を創設し、大幅な割引旅行商品の造成がなされました。

本市においても、国の支援策に併せて、「いざ霧島キャンペーン実行委員会」による「霧島に泊まってピッグなお得キャンペーン」を実施するなどの特徴ある取組により、対前年比1.79ポイントの減少に収まることができました。

このような中、外国人宿泊客については、熊本地震の影響により2016年(平成28年)に

つについては対前年を下回ったものの、2012年(平成24年)の5万2,459人に対して、2015年(平成27年)には11万932人に達するなど、本市の観光産業を支える重要な存在となっています。

今後、LCC(格安航空会社)の参入に伴う便数の充実などにより、個人客を中心に更に増加すると期待されています。

直近においては、2017年(平成29年)10月11日に6年ぶりとなる新燃岳の噴火により、牧園・霧島地区を中心に宿泊施設や観光施設などのキャンセルが発生し、大幅に宿泊客が減少したことから、本市が試算した推計値で2億5,000万円を超える経済損失となりました。同月31日には警戒範囲が3kmから2kmに縮小され、県道1号線及び104号線が開通されたことから、誘客促進につながる事業に直ちに取り組むための予算措置を行い、県内や宮崎県、福岡県などを中心に、メディアなどを活用した秋・冬シーズンの積極的な情報発信のほか、温泉入浴半額キャンペーンや県内外でのイベント、旅行代理店への誘客活動など官民一体となった取組により、徐々に回復傾向にありました。

しかしながら、2018年(平成30年)3月1日に新燃岳が再び噴火し、噴火警戒レベル3を継続した上で警戒範囲が最大4kmまで拡大されたことから、入山規制や風評被害などによって、再び観光客の動向が減少傾向に転じると予想されており、災害の未然防止と地域住民や観光客に正確な情報を提供するため、防災や観光などの関係機関が一体となって気象・火山情報の収集及び共有に努めています。

2 霧島市の観光客数の推移

2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	2012年 (平成24年)	2013年 (平成25年)	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

観光客数	全体宿泊客数 (A)	979,058人	898,207人	1,018,600人	1,022,354人	960,509人	943,356人	926,497人
	対前年比 (宿泊数)	92.49%	91.74%	113.40%	100.37%	93.95%	97.21%	98.21%
	日帰客(B)	6,524,345人	5,835,168人	6,348,462人	6,693,064人	6,608,087人	6,613,707人	6,641,420人
	対前年比 (日帰数)	100.31%	89.44%	108.80%	105.43%	98.73%	100.01%	100.41%
	合計 (A)+(B)	7,503,403人	6,733,375人	7,367,062人	7,715,418人	7,568,596人	7,557,063人	7,567,917人
	対前年比	99.22%	89.74%	109.41%	104.73%	98.09%	99.84%	100.14%

2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	2012年 (平成24年)	2013年 (平成25年)	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

宿泊内訳	県内からの 宿泊客	250,769人	236,540人	230,086人	236,442人	208,751人	230,969人	228,900人
	県外(国内) 宿泊客	678,792人	624,520人	736,055人	710,577人	663,695人	601,455人	593,216人
	国内宿泊客	929,561人	861,060人	966,141人	947,019人	872,446人	832,424人	822,116人
	対前年比 (国内)	89.89%	92.63%	112.20%	98.02%	92.12%	95.41%	98.76%
	外国人 宿泊客	49,497人	37,147人	52,459人	75,335人	88,063人	110,932人	104,381人
	対前年比 (外国人)	202.51%	75.05%	141.22%	143.61%	116.89%	125.97%	94.09%

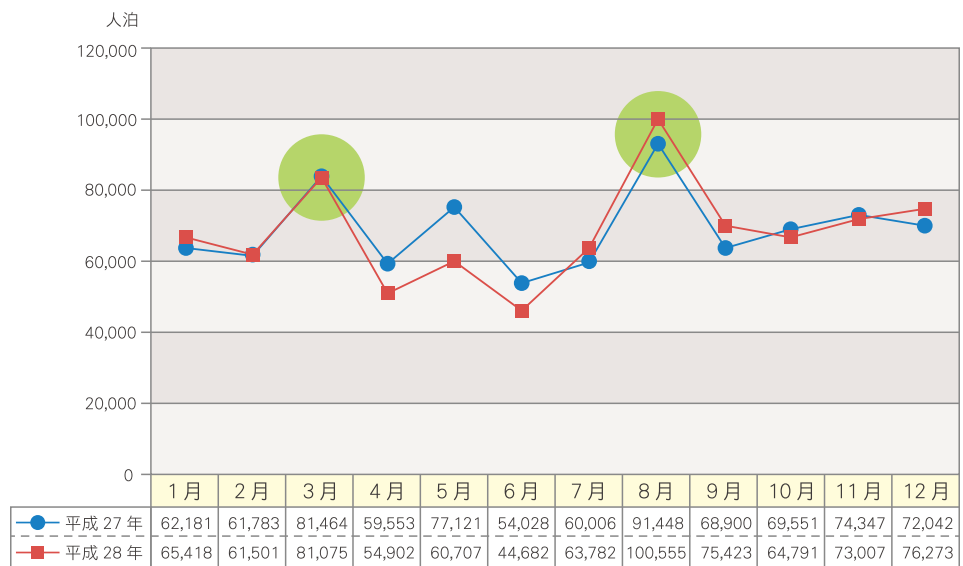
3 霧島市を訪れている旅行者の特性

霧島市を訪れている旅行者の特性について、観光統計や各種アンケート結果などから傾向についてまとめました。

1 「いつ」

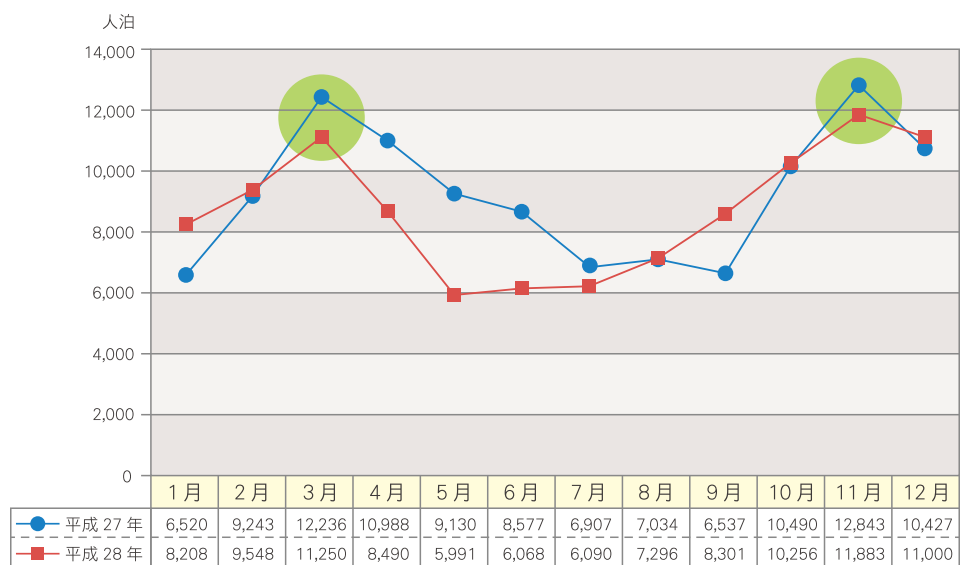
直近2年間の月別宿泊客の入込状況では、8月が最も多く、次いで3月が多くなっています。その一方で6月が最も少なくなっています。

【直近2年間の月別国内宿泊客の入込状況】



外国人宿泊客については、11月が最も多く、次いで3月が多くなっており、国内宿泊客と比べて最も多い月に違いが見受けられます。

【直近2年間の月別外国人宿泊客の入込状況】



「どこから」

- 国内宿泊客は「鹿児島」と「九州」で約6割を占めており、次いで「関東」、「近畿」の順となっています。この4地域で約9割を占めています。
- 九州内では、「福岡」が最も多く、次いで「宮崎」、「熊本」の順となっており、この3県で8割を超えています。

【直近2年間の国内宿泊客の発地別入込状況】

平成28年(宿泊客数合計：822,116人泊)→「鹿児島」と「九州」で59.5%を占める。

	鹿児島	九州	関東	近畿	中部	中国	四国	北海道	東北	北陸
宿泊客数	228,900	260,236	141,130	100,824	36,672	23,646	9,225	8,582	6,943	5,958
構成比	27.8%	31.7%	17.2%	12.3%	4.5%	2.9%	1.1%	1.0%	0.8%	0.7%

平成27年(宿泊客数合計：832,424人泊)→「鹿児島」と「九州」で58.5%を占める。

	鹿児島	九州	関東	近畿	中部	中国	四国	北海道	東北	北陸
宿泊客数	230,969	256,437	128,322	108,629	39,395	30,560	11,247	9,618	8,763	8,484
構成比	27.7%	30.8%	15.4%	13.0%	4.7%	3.7%	1.4%	1.2%	1.1%	1.0%

- 外国人宿泊客については、「台湾」、「韓国」、「香港」が上位となっており、この3地域で8割を超えています。

【直近2年間の外国人宿泊客の発地別入込状況】

平成28年(宿泊客数合計：104,381人泊)→「台湾」、「韓国」、「香港」で87.3%を占める。

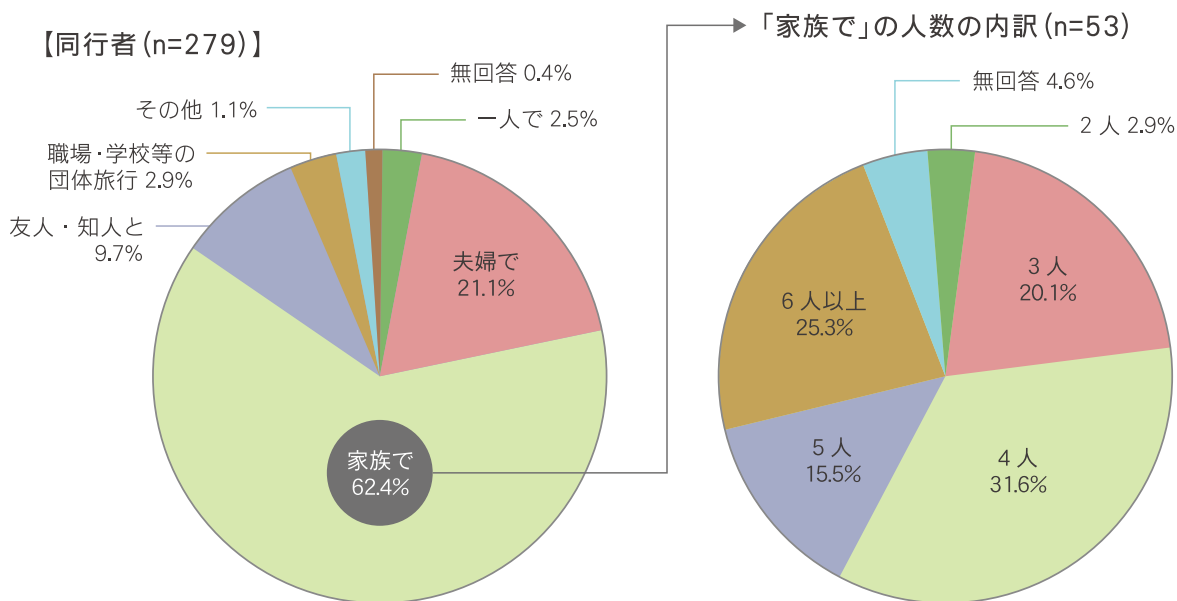
	台湾	韓国	香港	中国	アメリカ	ヨーロッパ	その他
宿泊客数	35,356	23,079	32,700	4,840	1,214	1,133	6,059
構成比	33.9%	22.1%	31.3%	4.6%	1.2%	1.1%	5.8%

平成27年(宿泊客数合計：110,932人泊)→「台湾」、「韓国」、「香港」で83.3%を占める。

	台湾	韓国	香港	中国	アメリカ	ヨーロッパ	その他
宿泊客数	45,862	26,398	20,161	7,272	2,182	2,173	6,884
構成比	41.3%	23.8%	18.2%	6.6%	2.0%	2.0%	6.2%

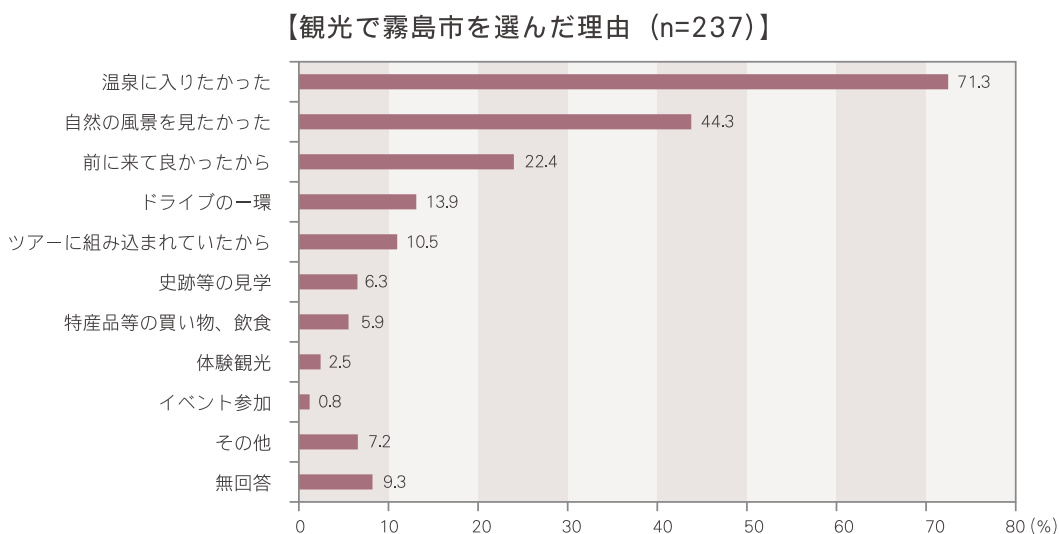
3 「だれと」

- 観光施設来訪者アンケート調査結果では、「家族」が77.4%と最も多く、同行者数は「2人」(41.7%)、「4人」(18.9%)の順となっています。
- 宿泊客アンケートでの同行者の割合は、「家族」が62.4%と最も多く、次いで夫婦が21.1%となっています。また、家族の人数では「4人」が31.6%と最も多く、次いで「6人以上」が25.3%となっています。



4 「何を求めて」

- 宿泊客アンケートでの「観光で霧島市を選んだ理由」については、「温泉」が71.3%と最も多く、次いで「景観」が44.3%となっています。また、「前に来て良かったから」が22.4%であり、一定のリピーター確保につながっています。



- 宿泊客アンケートにおいて、「一番印象に残ったもの」として、「温泉」、「自然」、「食べ物」、「宿泊施設」が上位に上げられています。

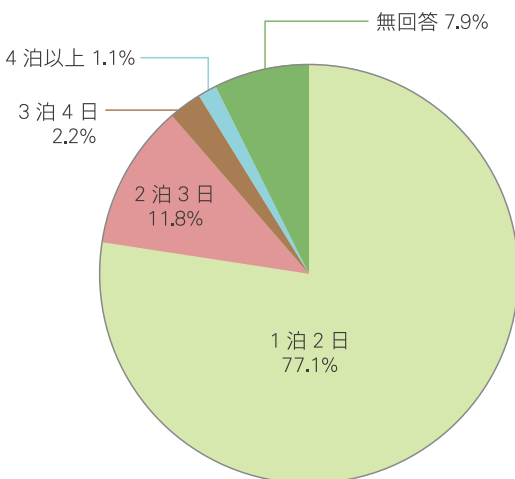
⑤ 「どのような交通手段で」

- 宿泊客アンケートにおいて、「霧島市までの交通手段」は、「自家用車」が58.1%と最も多く、次いで「レンタカー」の17.6%となっている反面、着地後の公共交通機関の利用は1割にも達していません。
- 宿泊客アンケートにおいて、「霧島市内で利用した交通手段」については、「自家用車」が55.9%と最も多く、次いで「レンタカー」が19.4%、「貸切バス・観光バス」が11.1%となっています。

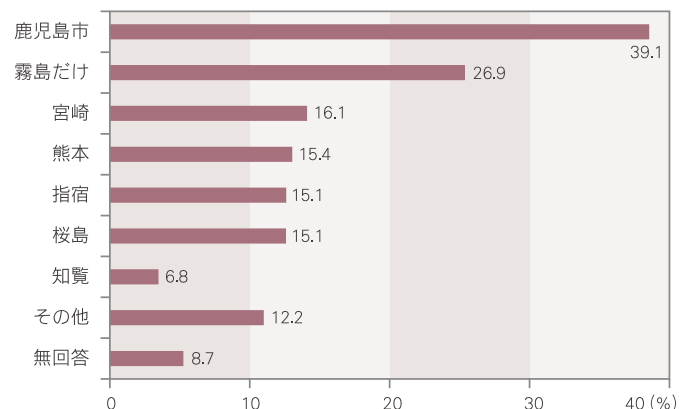
⑥ 「どのくらいの行程で」

- 宿泊客アンケートにおいて、「今回旅行の霧島市内での宿泊数」については、「1泊2日」が77.1%と最も多く、次いで「2泊3日」が11.8%となっています。
- 宿泊客アンケートでの「霧島市と併せて訪問した(予定の)場所」については、「鹿児島市」が39.1%と最も多く、次いで「霧島だけ」が26.9%となっています。また、宮崎県が16.1%、熊本県が15.4%となっていることから、県内だけでなく、隣県も併せて広域的な旅行計画を立てていることが伺えます。

【今回旅行の霧島市内での宿泊数(n=279)】



【霧島市と併せて訪問した(予定の)場所(n=279)】



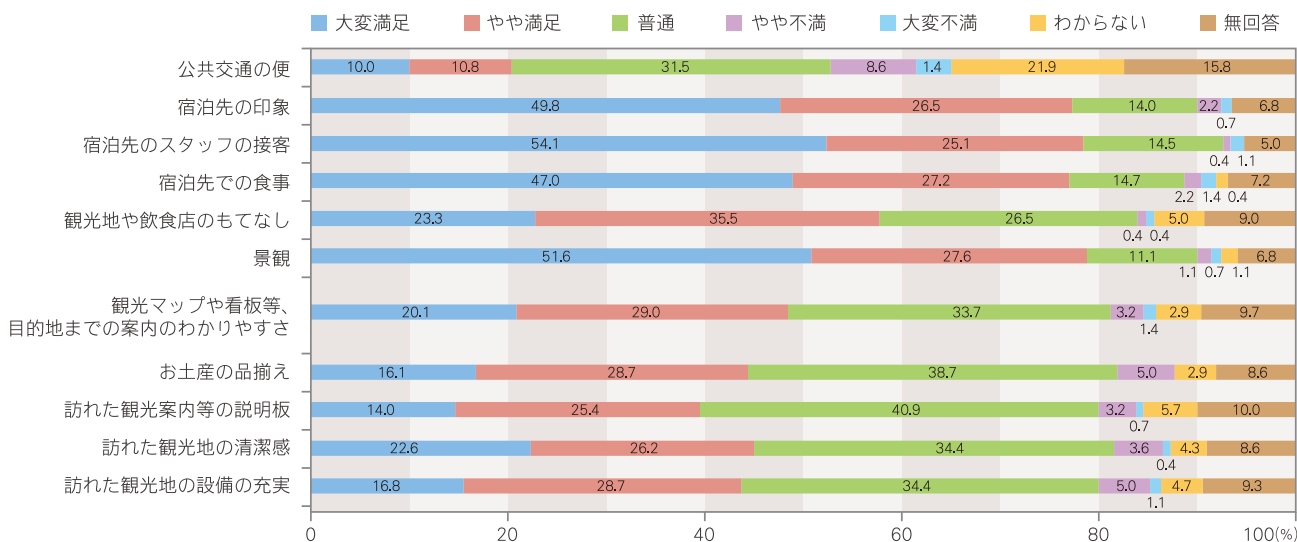
⑦ 「いくら消費しているか」

- 観光施設来訪者アンケートにおいては、霧島市内での一人当たりの消費額は、日帰り客が2,681円(内訳上位は飲食代48.5%、土産代29.7%、交通費17.9%)、宿泊客が2万4円(内訳上位は宿泊費48.2%、飲食代20.1%、交通費17.4%)となっています。
- 宿泊客アンケートにおいては、霧島市内での一人当たり消費額は、2万5,726円(内訳上位は宿泊費55.0%、飲食代15.6%、土産代・買い物15.1%)となっています。

8 「何に満足し、何が不満か」

● 宿泊客アンケートでの「旅行全体の満足度」については、「宿泊先の印象」、「宿泊先のスタッフの接客」、「宿泊先での食事」、「おもてなし」、「景観」における「大変満足」、「やや満足」の割合は50%を超えているものの、「公共交通の便」、「案内のわかりやすさ」、「お土産の品揃え」、「訪れた観光案内等の説明板」、「訪れた観光地の清潔感」、「訪れた観光地の設備の充実」が50%を下回っていることから、おもてなしなどの受入体制は充実しているものの、物理的な環境整備が求められています。

【今回旅行全体の満足度 (n=279)】



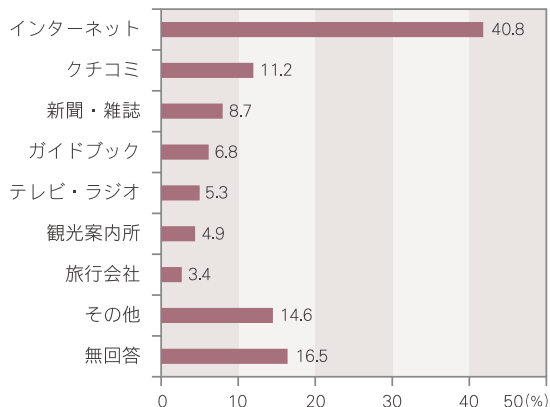
9 「観光情報をどのようにして入手しているか」

● 観光施設来訪者アンケートにおいて、「旅行情報の収集手段」については、「インターネット」が40.8%で最も多く、次いで「口コミ」が11.2%、「新聞・雑誌」が8.7%となっていますが、県外居住者については、「インターネット」に次いで「ガイドブック」が多くなっています。

● 宿泊客アンケートにおいて、「観光情報の入手方法」については、「旅行雑誌やガイドブックを見て」が40.5%と最も多く、次いで「インターネットで」が32.1%となっており、宿泊を伴う場合は雑誌媒体により事前調査をしていることが伺えます。

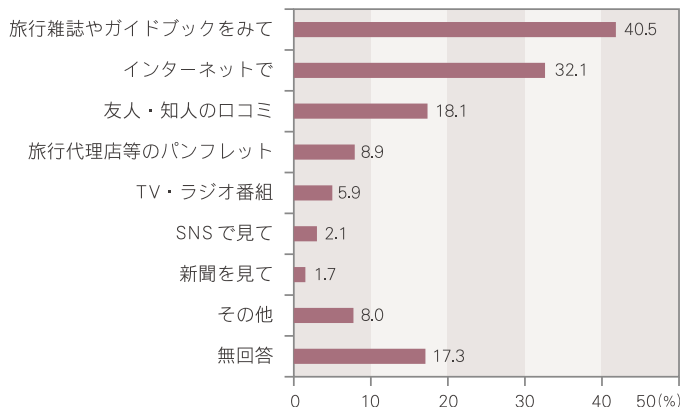
● 観光施設来訪者アンケート

【旅行情報の収集手段 (n=206)】



● 宿泊アンケート

【観光情報の入手方法 (n=279)】



4 霧島市の観光に関する意見・要望

霧島市観光総合戦略策定に伴う各種調査で出された意見、要望については、次のとおりです。
(主なものについて抜粋)

外部検証ヒアリング

【調査対象：旅行代理店、情報誌編集社、航空会社・JRなどの運輸業、県観光連盟】

- 霧島のイメージは漠然としていて突出したものがない。
- すべての分野が平均点以上であるが、インパクトが弱く埋もれている。
- 霧島の観光のメインテーマを明確にする必要がある。
- 霧島温泉は指宿砂蒸し温泉ほどのインパクトがない。
- 活動などにおいて地域の一体的な取組が感じられない。
- 人が集まるだけのイベントでのPRでは目的も対象もはっきりしないので無駄と思える。
- 地元向け、観光客向けなどターゲットの絞込みが必要である。
- 県民を対象としたPRの実施。地元からの周知が必要である。
- パンフレットが多く、具体的な紹介が欠けておりわかりにくい。
- キラーコンテンツ(決め手となる素材)がない。
- 共通の食を打ち出して欲しい。
- 温泉を使った食材の開発をしてはどうか。
- 霧島神宮、神話を生かせるのは霧島だけである。ストーリーを表現する。
- 海を生かした取組が必要である。
- 温泉を生かした高齢者向けのプログラムの開発を検討してみてもどうか。
- 観光地としての一体感の創出。トータルプロデュースが必要である。
- グランピングなど自然を生かした大人の遊び場の整備をしてはどうか。
- 大自然の中での食事など、自然、景観を生かした取組があれば良い。
- アウトドアメーカーと提携したイベントを実施してはどうか。
- 地元企業を生かした工場見学などの産業観光への取組があれば良い。
- オンラインコンテンツ(霧島特有の観光素材)の開発が必要である。
- 霧島は自然、山、散策、トレッキングをメインに売り出している。
- 滞在型観光として、体験型メニューの充実が必要である。
- 二次アクセスの利便性向上、わかりやすい案内・標示が必要である。
- Wi-Fi整備、超光速ブロードバンド環境が整備されていない。インバウンド対応には不可欠である。
- 温泉地などのエリアの標示をわかりやすくしてほしい。
- 観光客をホテル内に囲うのではなく、周辺のまち歩き、散策ができる場所の整備が必要である。
- 観光施設、交通拠点などでの歓迎看板設置、季節の装飾などをすれば良い。

観 光 ワ ー ク シ ョ ッ プ

- 市民による情報発信、「市民によるSNS発信デー」を実施してはどうか。
- SNSなどの活用によるPRが必要である。
- ニーズにあった情報提供が必要である。
- パンフレットが古い。
- 宣伝、PR不足である。
- スポーツ、音楽イベント開催による観光客誘致をしてはどうか。
- 観光アプリの開発を進める。
- 鳥の刺身、アゴ肉など地域の食文化を生かした料理開発をしてはどうか。
- フードイベントの開催をしてはどうか。
- グルメマップの作成をする。
- お茶、黒酢、黒豚、黒牛など素材は豊富であるが、認知不足。生かされていない。
- 観光に対する市民意識の向上が必要である。市民のおもてなしの心、意識を高める。
- 自然に関するイベント、登山道整備、四季を感じるイベントの実施をしてはどうか。
- 観光案内所、外国人観光客への対応の充実が必要である。
- 霧島神宮は門前町の賑わいが不足している。
- 温泉街に雰囲気を作る。浴衣でのまち歩きのトータルプロデュースが必要である。
- 危険な場所は不快に感じる。リピート率の低下につながる。
- 超高速ブロードバンド環境の整備が必要である。
- 外国人観光客の受入体制の整備が必要である。
- バス基地を設けて温泉事業者との送迎基地にする。
- 移動手段が少ない。二次アクセスの利便性向上、バス増便が必要である。

● 観光ワークショップの様子



宿 泊 客 ア ン ケ ー ト

- 温泉の特徴をリスト化してほしい。宿泊と立ち寄り湯の一覧もほしい。
- 外国人観光客のマナーを徹底して欲しい。
- お茶摘み体験がしたい。
- 職場や学校で配るお土産がない。霧島らしいお菓子がもっとあれば良い。
- ホテルから徒歩で観光できる場所がない。無料バスなどで観光地に行けるサービスがあれば良い。
- 綺麗な観光地で、必要以上に近代化せず、自然を守ってほしい。
- 廃屋など汚い場所が目立つので撤去したほうが良い。
- 登山口のトイレやビジターセンターなど充実してほしい。
- バス、JRの本数が少なくて不便。改善して欲しい。
- バリアフリー化を推進し、広く障がい者が楽しめる環境整備をしてほしい。

観 光 事 業 所 ・ 従 事 者 ア ン ケ ー ト

- 温泉郷“霧島”として世界に発信が必要である。
- 有名な温泉地ではあるが、観光に生かされていない。
- 今後、インバウンドは増加するので対策が必要である。
- SNSを利用した口コミでの拡散が必要である。
- アラブ系の航空路線の就航による誘客。それに伴う料理、宗教への理解が必要である。
- 観光案内所で霧島神水峡の宣伝をしてほしい。豊かな自然の遊歩道があるが、知らずに帰ってしまう。
- 市民参画型の観光振興への取組が必要である。
- 九州一の春祭り「初午祭」を生かした観光客の誘致をする。
- 主要道路脇の雑草などの除去、景観保全が必要である。
- 妙見温泉周辺の交通利便性と地域の活性化をしてほしい。
- 観光地として駅前が寂しい。
- 二次アクセスの利便性向上が必要である。
- 交通機能をもう少し便利にして欲しい。
- 早急な交通機関(特にバスとJR間、県境)の充実が必要である。

● 妙見・安楽温泉郷



● 初午祭



5 霧島市観光の今後の課題

各種調査結果による霧島市の観光の課題をまとめると「自然」、「温泉」、「食」、「文化」、「歴史」などの観光的要素に恵まれている一方で、その魅力を更に生かすためには、次のような課題の解決に取り組む必要があります。

インパクトが弱い

観光地としての具体性が見えない

他の観光地との差別化が図られていない

「霧島」でなければならないものがない

「霧島」の魅力が伝わっていない

二次アクセスや案内看板が不十分である

障害のある方や外国人の受入体制が不十分である

● 霧島温泉郷



● はやとの風



1 戦略の基本目標

第二次霧島市総合計画に掲げた基本事業を戦略の基本目標の柱とし、市民をはじめ、観光関係者、団体など産学官民一体となった取組を戦略的に進めます。

基本目標Ⅰ

国内外の観光客の誘致

日本初の国立公園「霧島」をはじめ、本市特有の歴史や文化、豊富な温泉や食などの多種多様な観光素材、空港や鉄道、高速道などが整備された、観光地としてのポテンシャルを最大限に生かすため、霧島市観光協会をはじめとする観光関係団体や地域と一体となった誘客活動を更に推進します。

また、国内外において本市の知名度を向上させるため、「観光地・霧島」のブランドの方向性を明確にするとともに、SNSなど市民による情報発信力の強化など、様々な手法による戦略的な情報発信の取組を推進します。

基本目標Ⅱ

観光素材の創出と活用

本市の特性である海拔0メートルから1,700メートルにわたる、山などの恵まれた大自然の魅力を生かし、着地型（体験型）の観光メニューや観光ルートの構築、地域の食材にこだわったご当地メニューの開発や提供など「五感に響く、魅力ある、選ばれる観光地づくり」を推進します。

また、ガイドクラブなどの活動を支援や観光素材の魅力を高める取組を進めるとともに、周遊観光の促進を図るため、広域観光ルートの開発や素材の活用を推進します。

基本目標Ⅲ

利便性の高い観光地づくり

国際線を有する空港所在都市としての強みを生かし、主要な交通結節点である空港や駅からの二次アクセスの強化を図ります。誰もが安心、快適に観光できるよう、施設などのユニバーサルデザイン化や多言語表記による案内板の設置、Wi-Fi及び超高速ブロードバンド環境の整備を促進します。

さらに、増加傾向にある外国人観光客の受入体制を強化するとともに、本市特有の自然、景観、歴史、文化を生かした観光地づくりを推進します。

2 戦略の目標値

戦略を推進するために、各基本目標に対しての具体的な数値目標を設定します。数値目標を設定することで、進捗状況を把握しながら、計画の着実な推進を図ります。

基本目標Ⅰ 国内外の観光客の誘致【観光客数（宿泊＋日帰り）、外国人宿泊者数】

観光客数 803万 3,500人 5年間でプラス 38万 9,900人 ↑

- 霧島市観光統計における観光客数（宿泊＋日帰り）2017年（平成29年）の目標値 764万 3,600人を基準として、毎年対前年比1%の増加を目指し、2022年の目標値を 803万 3,500人とします。

外国人宿泊者数 19万 6,500人 5年間でプラス 7万 4,500人 ↑

- 霧島市観光統計における外国人宿泊者数の2017年（平成29年）の目標値 12万 2,000人を基準として、毎年対前年比10%の増加を目指し、2022年の目標値を 19万 6,500人とします。

基本目標Ⅱ 観光素材の創出と活用【開発又は磨き上げた観光資源の数（累計）】

観光資源の数 55本 5年間でプラス 10本 ↑

- 2017年度（平成29年度）目標値の45本を基準として、毎年2本ずつの増加を目指し、2022年度の目標値を 55本とします。

● 鹿児島空港



● 九州オルレ霧島・妙見コース



基本目標Ⅲ 利便性の高い観光地づくり【霧島市観光に対する満足度】

満足度 61% 5年間でプラス5ポイント ↑

- 2017年度(平成29年度)の霧島市観光動向調査の「霧島市観光に対する満足度」の56%を基準として、2022年度の目標値を61%とします。

基本目標Ⅰ～Ⅲの総成果としての目標【観光消費額】

観光消費額 703億7,300万円 5年間でプラス34億1,500万円 ↑

- 基本目標Ⅰ～Ⅲの目標達成により、2017年(平成29年)の観光消費額目標値669億5,800万円を基準として、基本目標Ⅰの観光客数目標値に消費額単価を乗じて積算し、2022年の目標額を703億7,300万円とします。

※観光消費額は観光客数目標値の割合を宿泊12%、日帰り88%として、消費額単価(宿泊29,000円、日帰り6,000円)を乗じた額です。

※各基本目標内にある「目標値」については、第二次霧島市総合計画の成果指標の目標値を用いています。

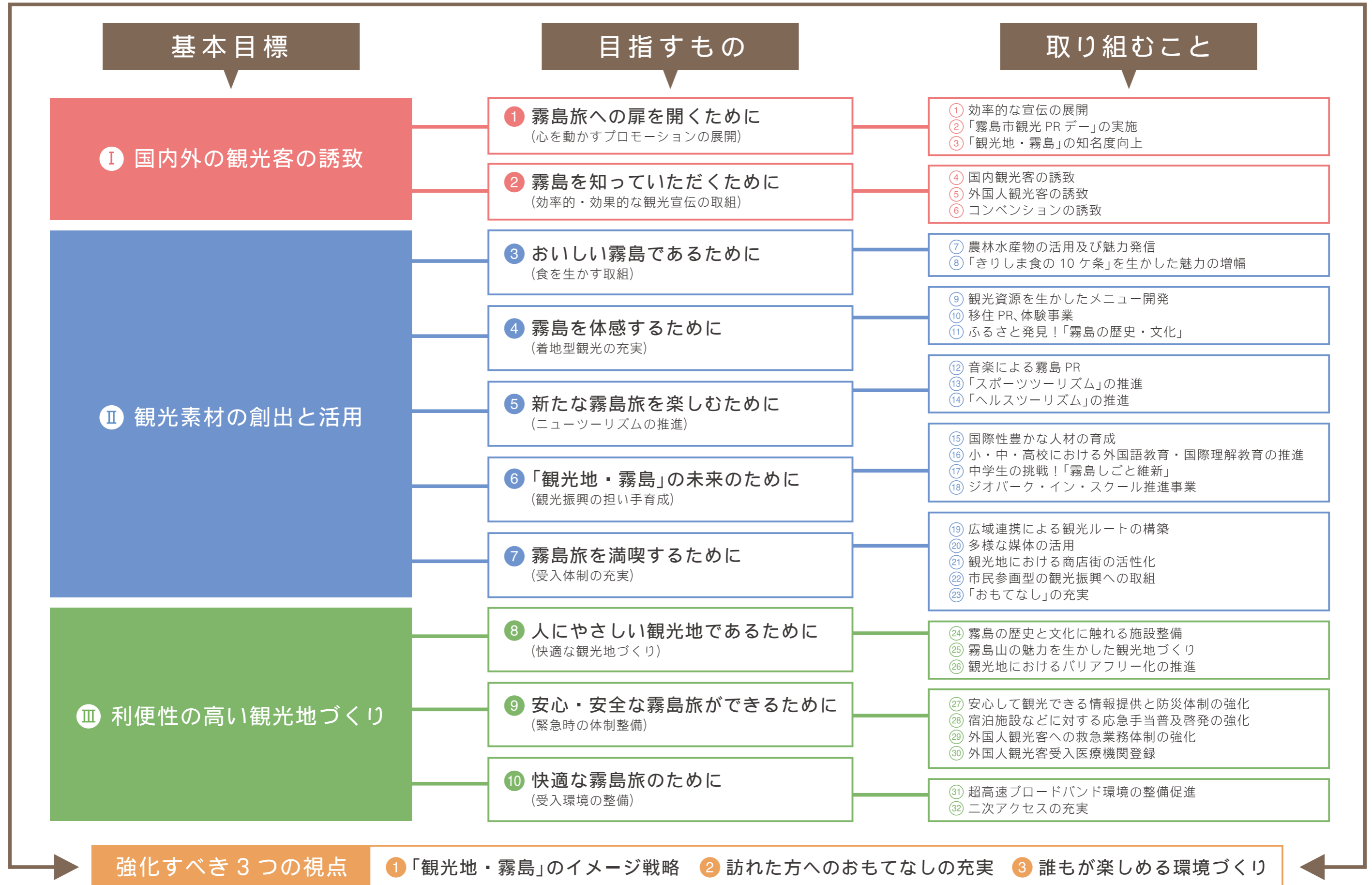
● 龍馬ハネムーンウォーク in 霧島



● 霧島温泉市場



1 戦略の全体像



2 具体的な取組

基本目標 I

国内外の観光客の誘致

1 霧島旅への扉を開くために

① 効率的な宣伝の展開

本市の神話や歴史、文化などストーリー性の高い魅力的な観光素材を、ホームページ、SNS、メディアなどを活用した効果的な情報発信に努めます。また、現地でのセールスについては、潜在的に関心のある方が集まる場所の選定やメディアとのタイアップなど「ターゲットの心に伝わる誘客活動」を展開します。

② 「霧島市観光PRデー」の実施

本市の魅力をより多くの人に伝えるため、市民一人一人が発信者となる「霧島市観光PRデー」を実施し、メールやSNS、電話、手紙などにより、市民一体となって本市の魅力を発信します。【観光ワークショップでの意見を反映】

③ 「観光地・霧島」の知名度向上

本市の観光の目的として最も魅力の高い「温泉」を、イメージ戦略の重要なキーワードとして、家族湯や露天風呂など多種多様な温泉施設や豊富な湯量、泉質、効能などの露出度を高め、積極的かつ具体的な情報発信を行います。

2 霧島を知っていただくために

④ 国内観光客の誘致

九州新幹線全線開業後、その効果が低迷していることから、関西及び中国、北部九州に対しての宣伝活動を強化します。また、潜在需要の高い関東や中部地方からの誘客を高めるために、航空路線が就航している都市及びその近隣都市を中心に積極的な宣伝活動を行います。

⑤ 外国人観光客の誘致

現在、就航している国際定期路線都市を中心に、トップセールスや現地キーパーソンとの関係強化を図るとともに、東南アジア地域の新興経済国などもターゲットに含めるなど、鹿児島県、鹿児島県観光連盟などとの連携を図り、インバウンド対策を強化します。また、北部九州を中心に九州内を訪れる外国人観光客をターゲットとした誘客への施策を推進します。

このほか、霧島市国際交流協会などの各種団体と協力し、海外交流都市(マレーシアマラッカ市、韓国釜山広域市)からの積極的な受け入れを行い、訪問団帰国後、自国において本市のPRを行っている活動を進めます。

⑥ コンベンションの誘致

交通の利便性や国立公園を有する豊かな自然環境、豊富な観光資源を生かし、観光交流人口の増加、国際交流の促進、地域経済の活性化、市民の文化向上に繋がるコンベンション誘致を促進します。

基本目標Ⅱ

観光素材の創出と活用

③ おいしい霧島であるために

⑦ 農林水産物の活用及び魅力発信

地産地消による観光地としての魅力アップを図ることを目的として、地元産の安心・安全な農林水産物を地元の宿泊施設や飲食店で利用していただくための啓発活動を行います。また、特色ある農林水産物の産地を巡るバスツアーなどを実施し、地元産の食材を活用した郷土料理や調理などの体験を行い、食材としての知名度を高めるためのPRを行うことにより消費の拡大を目指します。

⑧ 「きりしま食の道10カ条」を生かした魅力の増幅

本市を観光地として選んでいただくため、食文化を重要なツールとして位置づけ、「霧島ガストロノミー推進協議会」が提唱する「きりしま食の道10カ条」に基づき、地元産食材のブランド化やメニューの開発など、農商工連携や産学官一体となった取組を推進します。

● 福山の黒酢「壺畑」



● 創作げたんは「ラルム」



4 霧島を体感するために

⑨ 観光資源を生かしたメニュー開発

本市の恵まれた自然環境を体感・体験できる観光素材の開発を行い、更には、個性豊かな観光資源を磨き上げ開花させることで、観光客の様々なニーズに沿ったメニューの開発を促進します。また、地元商工業者の特性を活かしたものづくり体験メニューによる産業観光の開発に取り組みます。

⑩ 移住PR・体験事業

本市の農山漁村の魅力を生かした、農林水産業の見学や作業体験などのメニュー開発に取り組みます。また、本市への移住推進を図るため、そのメニューを生かした移住体験ツアーを企画します。

⑪ ふるさと発見！「霧島の歴史・文化」

本市には、南九州の縄文時代を代表する上野原遺跡(国史跡)があり、鹿児島県上野原縄文の森という歴史公園があります。奈良時代には大隅国の中心地として、国府や国分寺(国史跡)が設置され、平安時代末期になると一宮である大隅正八幡宮(現・鹿児島神宮)が繁栄し、その境内と周辺の主要な遺跡は国の史跡となりました。

天孫降臨の神話で知られる霧島神宮の社殿(国重要文化財)は江戸時代の建立で、その壮麗な姿を今もとどめています。また、幕末から明治に活躍した西郷隆盛や小松帯刀、坂本龍馬らが訪れた霧島の温泉にも古い歴史があります。

このように、本市の歴史は古く、数多くの文化財があることから、これらを活用した史跡めぐりや歴史講座を企画します。

● 高千穂峰登山



● 史跡めぐり(きりしま歴史散歩 鹿児島神宮)



5 新たな霧島旅を楽しむために

⑫ 音楽による霧島PR

霧島国際音楽祭には、県内外からの聴講者に加え、国内外の著名な演奏家や指導者、そして音楽家を目指す多くの受講生が訪れています。この霧島国際音楽祭開催時期の前後に、市内の商業施設などを中心に、クラシック音楽によるイベントを開催するなど、本市における音楽を活用した新たなメニュー開発を行います。

⑬ 「スポーツツーリズム」の推進

恵まれた自然環境とスポーツを結びつけ、年間を通じてスポーツキャンプ・合宿や全国・九州規模の大会誘致が可能な滞在型のスポーツ環境を整備し、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などを目指す、「する」、「観る」、「支える」ことによる「スポーツツーリズム」を推進します。

⑭ 「ヘルスツーリズム」の推進

トレッキングや各種ウォーキング、九州オルレ、森林セラピーなど霧島の豊かな自然や食、音楽などにより、感動と癒しを与える「五感再生ツーリズム」の推進と磨き上げを行うとともに、地元医療施設と連携した、医療と滞在型観光の組み合わせや、湯治による長期滞在型観光への取組など、健康増進を図る「ヘルスツーリズム」を推進します。

● 霧島国際音楽祭



● 森林セラピー



6 「観光地・霧島」の未来のために

⑮ 国際性豊かな人材の育成

霧島市国際交流協会などの青少年海外派遣事業の充実を図ることにより、本市の魅力を広く海外に伝えることができる国際性豊かな人材の育成を推進するとともに、本市が委嘱する「霧島市国際交流大使」を活用した情報発信などに取り組みます。

⑯ 小・中・高校における外国語教育・国際理解教育の推進

小学校において、外国語に慣れ親しみ、楽しみながら外国語の活動をする児童を育成するために、小学校外国語教育の更なる充実を図ります。また、市内の小・中・高等学校で段階的に外国語を活用したコミュニケーション能力を高め、「霧島市を外国人に紹介できる英語力」を身に付けた児童・生徒を育成するために、A L T (外国語指導助手) や A E A (外国語支援員) の積極的な活用や計画的配置による授業の充実に努めます。

⑰ 中学生の挑戦！「霧島しごと維新」

外国語を習得し、将来、本市の魅力を発信し、市内の企業に貢献・就職しようとする志をもった生徒を育成するために、国際的視野を有する講師による講話や職場で外国語を活用する実習を伴う体験活動を実施します。

⑱ ジオパーク・イン・スクール推進事業

各学校で実施する霧島山登山活動への霧島ジオガイド派遣や、学校の教育活動として、生徒にジオガイド体験活動をさせるとともに、ジオパークコーナーを学校に設置することを通して、児童・生徒に霧島山の植生や地質など、霧島ジオパークの特徴や魅力を体験させ、唯一無二のふるさとの山「霧島山」に対する誇りと愛着を高め、将来、霧島市の魅力を発信できる人材の育成を目指します。

● イングリッシュサマースクール



● 霧島ジオガイド派遣による登山活動



7 霧島旅を満喫するために

⑱ 広域連携による観光ルート構築

鹿児島県四地区観光連絡協議会や環霧島会議、錦江湾奥会議などの取組の充実・強化を図り、観光客の周遊性を高めるなど、広域連携を生かした観光ルートの構築を図ります。また、熊本、宮崎県及び県内離島、大隅半島との連携した新たな広域ルートの開発を推進します。

⑳ 多様な媒体の活用

本市を訪れる国内外の観光客が、快適に観光地を楽しんでいただくための多言語翻訳機の活用や、多言語音声案内、観光地紹介動画などでの字幕や手話通訳案内、VRを導入するなど、多様な媒体を活用した観光案内を推進します。

㉑ 観光地における商店街の活性化

観光客が、買い物や飲食などによってまち歩き観光を楽しめる商店街を目指すため、空き店舗などの積極的な活用を推進します。また、観光地における新たな出店や商品開発など、関係団体と連携した起業支援などを行います。

㉒ 市民参画型の観光振興への取組

観光地としての魅力を市民にも知っていただくため、観光に関する講座や、観光ワークショップなどを開催します。また、市民一人一人がそれぞれの立場で観光振興の担い手となり、おもてなしの実践や自発的な活動を推進し、観光地の市民としての意識向上を図ります。【観光ワークショップでの意見を反映】

㉓ 「おもてなし」の充実

本市を訪れる観光客に満足していただくために「おもてなし研修会」を開催し、観光従事者をはじめとした市民の意識向上を図ります。また、本市で開催される2019年のインターハイ南部九州総体、2020年のかごしま国体、2022年の全国和牛共進会など、全国規模の大会で訪れた方を市民とともに歓迎し、再来訪や本市の認知度向上に繋げるためのおもてなしの充実を図ります。また、事業者と連携した外国人観光客の受入体制の充実のため、言語や文化、宗教などに関する知識を高める「外国人受入対応接客セミナー」などを開催します。

基本目標Ⅲ

利便性の高い観光地づくり

8 人にやさしい観光地であるために

②4 霧島の歴史と文化に触れる施設整備

本市には、天孫降臨などの神話の伝説や上野原縄文の森、霧島神宮、鹿児島神宮、更には大隅国建国に関係する史跡など、南九州を代表する歴史遺産が多く点在しています。これらの豊富な歴史遺産を有機的に繋げる観光ルートづくりや多言語表記による案内板の設置、さらにはQRコードなどを使った詳細かつ充実した説明など、日本の文化を広く世界に伝えるために、外国人観光客にも対応した環境の整備を図ります。

②5 霧島山の魅力を生かした観光地づくり

霧島山は20数座からなる火山が重なり合う変化に富んだ地形を持ち、多様なトレッキングを楽しむことができます。この自然豊かで魅力的な霧島山の保護と利活用を行いながら外国人を含めた観光客が霧島山を満喫できる観光地の整備を図ります。

②6 観光地におけるバリアフリー化の推進

ホテルや旅館、立ち寄り湯などの整備におけるバリアフリー化の周知・啓発に努め、誰もが便利で快適に利用できる施設整備を推進します。また、バリアフリーツーリズム振興のため、有料ボランティアやヘルパー、介護タクシーなどのネットワークを構築します。

●多言語音声観光ガイド「聴き旅」



●霧島山



9 安心・安全な霧島旅ができるために

⑳ 安心して観光できる情報提供と防災体制の強化

観光客が安心して観光できるよう、災害などに関する情報を逐次、的確に発信するとともに、観光地における避難体制の充実・強化を図ります。また、防災情報の新たな伝達手段の導入に向けた調査・研究を行い、緊急時における状況などについて、外国の方にも理解できる情報手段を構築します。

㉑ 宿泊施設などに対する応急手当普及啓発の強化

観光客が安心・安全な観光や宿泊のために、全ての宿泊施設などへAEDを設置し、緊急時にAEDを用いた心肺蘇生法を含む様々な応急手当などが行えるよう、関係団体への定期的な講習会を開催することにより、観光客が不慮のけがや病気の際にスムーズな連携が図られる体制を構築します。

㉒ 外国人観光客への救急業務体制の強化

外国人観光客が不慮のけがや病気の際に、119番通報から医療機関収容までの間の救急搬送時における、外国語による対応が可能な体制を構築します。

㉓ 外国人観光客受入医療機関登録

外国人観光客が不慮のけがや病気の際に、スムーズに医療機関にアクセスできるようにするため、外国人患者の受け入れが可能な医療機関として、霧島市立医師会医療センターを登録し、外国語による診療ができる体制を構築します。

● 避難壕 (高千穂河原)



● 霧島市立医師会医療センター



10 快適な霧島旅のために

① 超高速ブロードバンド環境の整備促進

観光客がインターネット環境を快適に利用できるよう、超高速ブロードバンドの環境整備を促進します。

② 二次アクセスの充実

空港や駅などの主要交通拠点と観光地を繋ぐ二次アクセスの充実を図るとともに、国内外の観光客に対して、二次アクセスに関する公共交通情報発信を行うため、スマートフォンなどでバスのダイヤ情報や乗り継ぎダイヤを容易に検索できる環境の整備とともに、多言語対応版のバスマップを作成し、更なる利便性向上に努めます。また、乗り継ぎ利用の促進や、乗り継ぎ利便性向上に向けて、交通結節点のダイヤ調整、分かりやすい案内標示及び情報提供、バス待ち環境の改善など、交通結節点において円滑に乗り継ぎができる環境整備などを行います。このほか、バス事業者、宿泊施設などと連携した新たな移動手段のあり方についての調査・研究に取り組みます。

● 霧島周遊観光バス運行開始セレモニー



1 戦略の推進体制

戦略の推進については、「霧島市観光総合戦略会議設置要綱」に基づき、「霧島市観光総合戦略会議」により全庁的な体制で実施します。戦略の基本目標及び目標値を達成するため、関係団体と行政が相互連携を図り、官民一体となった取組が行えるよう、「霧島市観光推進会議」を実働組織として位置付けます。

戦略の進行管理については、戦略を着実に遂行するため、関係団体及び行政関係部署がそれぞれ実現に向けた具体的な取組を行い、必要に応じて「霧島市観光推進会議」を開催し、進捗状況の確認を行うとともに、戦略期間内の毎年度末までに当該年度の進捗状況を取りまとめ、「霧島市観光総合戦略会議」に報告し、事業実施状況などについて検証します。

また、必要に応じて戦略の見直しについて検討及び協議を行います。

2 戦略の振り返り

戦略の成果を検証するため、実施期間の最終年度である 2022 年度に「霧島市観光動向調査」を実施し、目標値の達成状況などの把握を行います。

また、戦略推進についてのご意見などを幅広く聴取するため、関係者や市民を対象とした観光ワークショップなどを開催し検証を行います。

● 霧島神宮温泉郷



● 日当山温泉郷



3 戦略の推進体制図

第二次霧島市総合計画

【2018年(平成30年)4月～2028年3月】

連携・整合

霧島市観光総合戦略

【2018年(平成30年)4月～2023年3月】

進行管理

(市内)霧島市観光総合戦略会議

【構成：両副市长、教育長、総務部長、企画部長、市民環境部長、保健福祉部長、農林水産部長、商工観光部長、建設部長、消防局長、上下水道部長、教育部長、霧島PR課長、観光課長】

連携・協議

霧島市観光推進会議

【戦略推進における実働組織】

【関係団体：霧島市観光協会、霧島市特産品協会、霧島商工会議所、霧島市商工会】
 【行政関係課：商工観光部長、安心安全課長(防災)、地域政策課長(交通政策、移住・定住)、市民活動推進課長(国際交流)、スポーツ・文化振興課長(スポーツ観光、芸術)、保健福祉政策課長(バリアフリー)、農林水産政策課長(特産品、地産地消)、建設政策課長(道路整備)、教育総務課長(人材教育・育成)、社会教育課長(文化財)、商工振興課長、観光課長、霧島ジオパーク推進課長、霧島PR課長】

分析結果と現状の
照合課題検証

ワークショップ

- 観光従事者
- 商工業者
- 高校生・大学生
- 一般

※対象期間中毎年実施

アンケート

- 事業所：観光協会会員
- 従事者：観光協会会員事業所従業員
- 観光客：宿泊施設、観光施設

※最終年度に実施

外部検証ヒアリング

- 旅行代理店
- 航空会社、JRなど
- 旅行誌記者
- 県観光連盟

※最終年度に実施

1 戦略策定のための実施調査

霧島市観光総合戦略策定のための基礎データの収集作業として、次のとおり各種調査を実施しました。

調査名	実施日	対象者	件数	手法	内容
外部検証 ヒアリング	2017年(平成29年) 6月26日(月)～ 7月20日(木) の間の8日間	旅行会社、 キャリア(運輸業)、 雑誌社など	15	各事業所を訪問し、 面談による 直接聞き取り	印象、霧島市観光の 優位性、ポテンシャル、 要望など
観光 ワークショップ	8月11日(金) 8月18日(金) 9月23日(土)	高校生、専門学生、 高専生、短大生、 大学生、観光従事者、 商工業者、一般	120	グループ討議 及び発表	現状、新たな観光資源、 課題、問題、具体的方策
観光施設来訪者 アンケート	8月26日(土)	塩浸温泉龍馬公園、 霧島まほろばの里、 霧島温泉市場、 霧島神話の里公園、 高千穂牧場を訪れた観光客	206	各施設での インタビューによる 直接聞き取り	旅行行程、印象、 再訪意向など
宿泊客 アンケート	8月10日(木)～ 31日(木)	ホテル華耀亭、 旅行人山荘、 霧島国際ホテル、 さくらさくら温泉、 霧島ロイヤルホテル、 ホテル京セラの宿泊客	279	アンケート用紙配布 による個別記載	旅行行程、印象、 満足度、再訪意向 など
観光事業所 アンケート	9月22日(金)～ 10月25日(月)	霧島市観光協会会員のうち、 宿泊・観光施設など	150	郵送配布、郵送回収	経営状況、 設備投資の状況、 雇用環境、観光振興 など
観光従事者 アンケート	9月22日(金)～ 10月25日(月)	霧島市観光協会会員の 宿泊、観光施設などで働く 従業員	300	郵送配布、郵送回収	仕事への満足度、 生活水準満足度、 今後の就業以降、 観光振興など

2 戦略策定における会議などの開催状況

霧島市観光総合戦略策定における会議などについて、次のとおり開催しました。

日時	名称	出席者	場所	内容
2017年(平成29年) 11月21日	各種調査分析 結果報告	観光課 霧島PR課 霧島市観光協会 委託業者	国分シビックセンター別館 2-3会議室	●委託業者による 分析結果報告、質疑など
12月4日	関係者協議	観光課 霧島PR課 霧島市観光協会	国分シビックセンター別館 2-3会議室	●第1回霧島市 観光推進会議内容協議
12月6日	第1回霧島市 観光推進会議	行政関係課 霧島市観光協会 霧島市特産品協会 霧島商工会議所 霧島市商工会	国分シビックセンター公民館 3階中会議室	●趣旨説明 ●経過報告 ●分析結果報告 ●策定骨子(案) ●意見交換
12月22日	第2回霧島市 観光推進会議	行政関係課 霧島市観光協会 霧島市特産品協会 霧島商工会議所 霧島市商工会	国分シビックセンター別館 4階中会議室	●第1回霧島市 観光総合戦略 第一次素案協議
12月28日	第1回霧島市 観光総合戦略会議	副市長 教育長 各部長など	庁議室	●経過報告 ●調査結果報告 ●霧島市観光総合戦略 第一次素案協議 ●日程
2018年(平成30年) 1月16日	関係者協議	観光課 霧島PR課 霧島市観光協会	国分シビックセンター別館 2-3会議室	●第二次素案協議
1月19日	第3回霧島市 観光推進会議	行政関係課 霧島市観光協会 霧島市特産品協会 霧島商工会議所 霧島市商工会	国分シビックセンター公民館 3階大研修室	●第1回霧島市観光 総合戦略会議報告 ●第二次素案協議
1月26日	第2回霧島市 観光総合戦略会議	副市長 教育長 各部長など	庁議室	●第二次素案協議 ●日程
2月16日 ～3月2日	パブリック コメント	—	本庁、各総合支所など	●霧島市観光総合戦略案 意見聴取
3月7日	第4回霧島市 観光推進会議	行政関係課 霧島市観光協会 霧島市特産品協会 霧島商工会議所 霧島市商工会	国分シビックセンター別館 4階中会議室	●第2回霧島市観光 総合戦略会議報告 ●パブリックコメント報告 ●最終案協議
3月13日	第3回霧島市 観光総合戦略会議	副市長 教育長 各部長など	庁議室	●パブリックコメント報告 ●最終案協議

3 用語解説

● 国立公園満喫プロジェクト (P01)

政府が2016年(平成28年)3月にとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョンに基づき、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化を図ることを目的としたプロジェクトのこと。霧島錦江湾国立公園を含む8つの国立公園が先行的に取り組む地域として選定されている。

● ジオパーク (P01,17,22)

地域にある火山などの地質地形やそれに関わる人々の文化(地球の遺産)の保全や活用を通じて、地域の持続可能な開発を実現していくプログラムのこと。

● 霧島市ふるさと創生総合戦略 (P01)

本市では2060年における人口目標を13万人とし、「Ⅰ まちを元気にする、人を豊かにする産業づくり」、「Ⅱ 訪れたい、住み続けたいまちづくり」、「Ⅲ 幸せな家庭づくりを支える環境づくり」、「Ⅳ 暮らしやすい、暮らしたくなる地域づくり」の4つの基本目標を掲げ、これらを推進するための具体的な施策をとりまとめた戦略のこと。

● 第二次霧島市総合計画 (P01,14,16,28)

将来における霧島市のあるべき姿と市民とともに進むべき方向についての基本的な指針として掲げる、総合的かつ計画的な市政運営を図るための最上位計画のこと。

● L C C (格安航空会社) (P03)

Low Cost Carrierの略。低コストかつ高頻度の運行を行うことで低運賃の航空サービスを提供する会社のこと。

● メディア (P03,18)

新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどの媒体のこと。

● 噴火警戒レベル (P03)

火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を5段階に区分して発表する指標のこと。

種別	名称	対象範囲	レベルとキーワード
特別警報	噴火警報(居住地域)又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	レベル5 避難
			レベル4 避難準備
警報	火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	レベル3 入山規制
		火口周辺	レベル2 火口周辺規制
予報	噴火予報	火口内等	レベル1 活火山であることに留意

● キラーコンテンツ (P10)

特定の分野を普及させるきっかけとなるような、圧倒的な魅力を持った情報やサービス、製品ののこと。

● グランピング (P10)

Glamorous(グラマラス)+Camping(キャンピング)からの造語。山野に設置された豪華なテントやロッジに宿泊して、ホテル並みの快適なサービスを受けながら、自然との触れ合いを楽しむこと。

● 産業観光 (P10,20)

歴史的・文化的価値のある向上、鉱山やその遺構、今も続く伝統産業などのモノづくりの現場、最先端の技術を備えた工場などを対象とした学びや体験を伴う観光のこと。

● オンラインコンテンツ (P10)

地域の特性を生かしたその場所にしかない観光資源や体験のこと。

● 二次アクセス (P10,11,13,14,17,26)

観光地最寄りの鉄道の駅や空港からの観光目的地までの交通及び観光地間、観光地内の交通手段のこと。

● Wi-Fi (P10,14)

複数のコンピュータを接続する技術を用いてデータの送受信を無線通信で行うこと。

● 超高速ブロードバンド (P10,11,14,17,26)

光回線等により、高速・大容量のデータ通信が可能な通信のこと。

● インバウンド (P10,12,18)

外国から自国への観光移動のこと(訪日外国人)。

● SNS (P11,12,14,18)

Social Networking Service の略。ウェブ上で人と人とのコミュニケーションを図るサービスのこと。

● バリアフリー (P12,17,24,28)

社会の中に存在する障害(バリア)を取り除き、生活しやすくすること。

● ユニバーサルデザイン (P14)

多種多様な要因によってユーザーを差別化せず、誰もが共有可能な状態を実現する製品や環境のデザインのこと。

● 九州オルレ (P15,21)

九州の雄大な自然と数多くの温泉を有する九州の歴史、文化を五感で楽しんでいただく観光を目的としたウォーキングコースのこと。「オルレ」は韓国・済州島から始まり、トレッキングコースの総称として呼ばれる。

● コンベンション (P17,18)

会議、見本市、イベントなど特定の目的で多数の人々が集まること。

● きりしま食の道 10カ条 (P17,19)

霧島が目指すブランドの方向性を内外に向けて浸透させるために、霧島の食の「これまで」と「これから」の食文化を10カ条にまとめたビジョンとして提唱し、市民、一次、二次、三次産業を超えて連携する霧島の新しい「食」に関する基本理念のこと。

● スポーツツーリズム (P17,21)

プロスポーツなどの観戦やマラソン、ウォーキングなどのスポーツイベントへの参加を目的とし、開催地周辺の観光と組み合わせた旅行スタイルのこと。

●ヘルスツーリズム (P17,21)

自然豊かな地域を訪れ、医学的、科学的、心理学的な根拠に基づき健康回復や維持、増進を目的とする観光のこと。

●セールス (P18)

観光客誘客のための宣伝活動のこと。

●トップセールス (P18)

自治体の首長や組織、団体等の代表が行う観光客誘客のための宣伝活動のこと。

●新興経済国 (P18)

経済が発展途上の段階にあり、急速な成長が見込まれる国のこと。

●霧島ガストロノミー推進協議会 (P19)

霧島が持つ食のポテンシャルを結集し先導していく拠点として、個人、企業、経済団体、農業協同組合、学校、市などで構成し、「霧島ブランドの推進」と「新たな商品・サービスの創造」の推進を図る組織のこと。

●天孫降臨 (P20,24)

日本神話で、ニニギノミコトが、アマテラスオオミカミの命を受けて葦原の中つ国を治めるために高天原から日向国の高千穂峰に天降ったこと。

●森林セラピー (P21)

森を楽しみながらこころと身体の健康維持・増進、病気の予防を行うことを目指した科学的な証拠に裏付けられた森林浴のこと。

●鹿児島県四地区観光連絡協議会 (P23)

鹿児島市、指宿市、霧島市、南九州市が協力し、相互の観光振興を図るとともに、鹿児島県観光の発展に寄与することを目的として設置された組織のこと。

●環霧島会議 (P23)

日本最初の国立公園である「霧島山」をふるさとの山と捉える自治体が、それぞれの行政区域を越えて連携し、環境、観光、防災及び教育等に係わる様々な施策・事業について、お互いに知恵を出し合い、協働することにより、地域活性化を図ることを目的として設置された五市二町で構成される組織のこと。

●錦江湾奥会議 (P23)

日本百景に選定されている錦江湾の湾奥部に位置する自治体が、それぞれの行政区域を越えて連携し、環境、水産、観光、交通、防災、教育等に係わる様々な施策・事業について、お互いに知恵を出し合い、協働することにより、地域活性化を図ることを目的として設置された四市で構成される組織のこと。

●VR (P23)

Virtual Realityの略。コンピュータの中で、現実に近い仮想空間を表現する技術のこと。

●QRコード (P24)

小さな四角形を縦横に同数並べた図形パターンにより、文字や数字などのデータを記録する規格のこと。

●バリアフリースーツリズム (P24)

障害や高齢のため体が不自由な方でも心配なく楽しめる観光のこと。



この戦略は
「まちを元気に」「人を元気に」するために
市民の皆様とともに創りあげた
観光の近未来地図です。
魅力たっぷりの霧島市で
「観光客の皆様」も「市民の皆様」も
笑顔あふれるまちづくり。
さあ、新しい霧島のスタートです。

霧島市長 **中重 真一**



霧島市観光総合戦略

発行：霧島市商工観光部

〒899-4394霧島市国分中央3丁目45番1号

TEL：0995-64-0705

FAX：0995-64-0958